

## リン資源リサイクル推進協議会 平成 22 年度事業報告

リンは、植物や動物の生体を構成する主要な元素であるとともに、生命活動の維持に必要なエネルギーの獲得に関する重要な機能を担っているなど、欠くことのできない必須元素であり、化学肥料、工業製品、食品添加物等に、大量にかつ幅広く利用されている。

一方、原料となるリン鉱石は限られた国に偏在しており、このままリンの需要量が増加傾向で推移すれば、今世紀の後半には経済的に採掘可能なリン鉱石が枯渇するというようなシナリオも発表されている。また、近年の世界的な食料需要の増加やバイオ燃料生産等によるリン酸質肥料の需要増大を一因とするリン鉱石価格の急騰等、国内で消費するリンの全量を海外からの輸入に頼っているわが国においては、資源の安定供給面からも不安材料となっている。

このような状況に対処するため、わが国は国内で使用したリンの回収・再利用や、未利用リン資源の利用技術を開発する必要に迫られている。

リン資源リサイクル推進協議会は、このような背景のもと、都市下水、含リン廃棄物、製鋼スラグ等の未利用リン資源からのリン回収技術や農業及び工業分野における省リン技術の開発促進、工業用リン酸や黄リン製造技術の革新等の検討を行い、リン資源の回収とリサイクルに関する事業化の促進を行うとともに、リンの回収と再利用を円滑に進めるための事業者間連携や再生リンの利用を促進するための施策の提言等について、産学官の幅広い関係者が一体となって、行政の縦割りや民間企業間の壁を越えたオールジャパンのレベルで戦略的かつ総合的な検討を行い、リン資源に関する持続可能な循環型社会の構築と地球環境保全に寄与することを目的として、平成 20 年 12 月 18 日に設立した。

平成 20 年度は、協議会の設立（設立総会及び記念講演会の開催）、NEDO等関係機関との情報交換や連携、ホームページの開設とメールニュースの配信による情報の共有、会員等への支援業務等の事業活動を行うとともに、リン資源リサイクルの実現に向けた課題や方策等の検討を行った。また、平成 21 年度は、リン資源リサイクルの実現に向けて、主として関係事業者間のマッチングや回収から利用までのリン資源リサイクルの実証等に向けた取り組みを推進するため、回収技術、利用技術双方の立場からの情報提供と意見交換を行うシンポジウムの開催、委員会設置の検討等を行った。

平成 22 年度においては、関係事業者間のマッチングや回収から利用までのリン資源リサイクルの実証等に向けた取り組みを一層推進するため、関係省庁のリン資源に関する取組との連携強化を図り、リン資源リサイクルに関する多様な技術等の情報提供と意見交換を行うシンポジウムや事例視察の開催、リン資源のリサイクルに関する業務について、その一層の推進及びそれに従事する者の一層の意欲向上に資するため功績者表彰を行った。

平成 22 年度事業の実施概要は、以下のとおりである。

## 1. 会員の状況

平成 22 年度末における会員数は、次のとおりである。

会員区分	平成 20 年 12 月 18 日 (設立総会)	平成 21 年 3 月 31 日 (20 年度末)	平成 22 年 3 月 31 日 (21 年度末)	平成 23 年 3 月 31 日 (22 年度末)	増減 (前年度比)
個人会員	36	46	58	67	9 (増 9 減 0)
団体・法人会員	41	47	62	67	5 (増 8 減 3)
合計	77	93	120	134	14 (増 17 減 3)

## 2. 会務の運営

総会及び幹事会等の開催状況は、次のとおりである。

### (1) 総会 (1 回開催)

#### 1) 第 3 回総会

開催日：平成 22 年 7 月 29 日 (木) (第 3 回シンポジウムと合わせて開催)

場 所：ポートメッセなごや 交流センター 3F 会議ホール (愛知県名古屋市港区)

参集者：関係省庁来賓、会員、取材

合計 80 名 (来賓 1 名、会員 79 名 (委任・事務局を含む))

内 容：平成 21 年度事業報告及び決算、平成 22 年度事業計画及び予算、リン資源リサイクル推進功績者表彰の実施、その他

### (2) 幹事会 (3 回開催)

#### 1) 第 4 回幹事会 (平成 22 年度第 1 回)

開催日：平成 22 年 4 月 26 日 (月)

場 所：日本肥料アンモニア協会 会議室 (東京都中央区)

参集者：役員、事務局、オブザーバー (関係省庁)

合計 20 名 (本人 8 名、委任 2 名、代理 2 名、オブザーバー 5 名、事務局 3 名)

内 容：総会議案 (平成 21 年度事業報告及び決算、平成 22 年度事業計画及び予算)、第 3 回シンポジウムについて、委員会について、その他

#### 2) 第 5 回幹事会 (平成 22 年度第 2 回)

開催日：平成 22 年 11 月 4 日 (木)

場 所：日本肥料アンモニア協会 会議室 (東京都千代田区)

参集者：役員、事務局、オブザーバー (関係省庁)

合計 21 名 (本人 6 名、委任 4 名、代理 2 名、オブザーバー 5 名、随員 1 名、事務局 3 名)

内 容：第 4 回シンポジウムについて、リン資源リサイクル功績者表彰について、その他

### 3) 第6回幹事会 (平成22年度第3回)

開催日：平成23年3月8日(火)

場 所：日本肥料アンモニア協会 会議室(東京都千代田区)

出席者：役員、事務局、オブザーバー(関係省庁)

合計22名(本人6名、委任4名、代理2名、オブザーバー6名、随員1名、事務局3名)

内 容：平成23年度事業計画及び予算について、その他

### (3) 企画委員会 (1回開催)

#### 1) 第4回企画委員会 (平成22年度第1回)

開催日：平成22年10月1日(金)

場 所：小野田化学工業株式会社 会議室(東京都千代田区)

出席者：委員3名、事務局2名、合計5名

内 容：第4回リン資源リサイクルシンポジウムについて、リン資源リサイクル推進功績者表彰について、第5回幹事会について、その他

### (4) 監査会

#### 1) 平成21年度事業監査

開催日：平成22年4月26日(月)

場 所：社団法人日本有機資源協会 会議室(東京都中央区)

出席者：監事2名、事務局2名、合計4名

内 容：平成21年度事業監査

## 2. 事業活動

### (1) 技術調査事業

本事業は、リン資源リサイクルに関する技術や関係機関の活動状況等の情報収集及び関係機関との情報交換等による連携活動により、リン資源リサイクルに関する調査・検討を行うものであり、平成22年度は主に以下の事業を実施した。

#### 1) 「下水灰のりん資源化事業」に関する懇談会との連携

財団法人下水道新技術推進機構が開催する「下水灰のリン資源化事業に関する懇談会」に参加し、情報収集を行うとともに、必要に応じて意見交換を行った。

##### ①第1回「下水灰のりん資源化事業」に関する懇談会への出席

開催日：平成22年9月7日(火)

場 所：(財)下水道新技術推進機構 会議室(東京都新宿区)

出席者：会員、事務局

内 容：経緯説明、下水灰のりん資源としての価値について、取り組みの可能性について、その他

## 2) 水の安全保障戦略機構との連携

チームとして参画している水の安全保障戦略機構の委員会等(執行審議会、基本戦略委員会、技術普及委員会、分野連携委員会等)に参加し情報収集を行うとともに、必要に応じて本協議会の活動状況の発信や提言、意見交換等を行った。

### ①第3回基本戦略委員会への出席

開催日：平成22年4月19日(月)

場 所：中央大学理工学部後楽園キャンパス3号館10階大会議室(東京都文京区)

出席者：事務局

内 容：「チーム水・日本」の活動報告、水の安全保障戦略機構から関係省庁に対する要望事項に関する討議、その他

### ②第4回基本戦略委員会への出席

開催日：平成22年6月15日(火)

場 所：アジア開発銀行研究所 会議室(東京都千代田区)

出席者：事務局

内 容：「チーム水・日本」の活動報告、水の安全保障戦略機構から関係省庁に対する要望の進捗状況、その他

### ③第5回基本戦略委員会への出席

開催日：平成22年7月23日(金)

場 所：中央大学理工学部後楽園キャンパス3号館10階大会議室(東京都文京区)

出席者：事務局

内 容：「チーム水・日本」の活動報告、水の安全保障戦略機構から関係省庁に対する要望の進捗状況、その他

### ④チーム水・日本特集書籍「ニッポンの水戦略：国内外の水問題解決に向けて日本の叡智を結集」への執筆協力

時 期：平成22年5月～6月

協力者：事務局

内 容：リン資源リサイクル推進協議会の役割と概要等

## 3) その他関係機関等との連携

リン資源リサイクルに関する関係省庁や研究機関、関係機関等の情報を集約し、ホームページ等で共有化や活動の効率化を図った。

## (2) 普及啓発事業

本事業は、リン資源リサイクル推進のための情報提供や情報交換等の普及啓発活動を行うものであり、平成 22 年度は以下の事業を実施した。

### 1) 第 3 回 リン資源リサイクルシンポジウム

開催日：平成 22 年 7 月 29 日（木）

場 所：ポートメッセなごや 交流センター 3F 会議ホール（愛知県名古屋市港区）

（第 1 回リン資源リサイクル事例視察と合わせて開催）

参集者：関係省庁来賓、会員、一般、取材

合計 シンポジウム：157 名、意見交換・交流会：63 名

内 容：リン資源リサイクルに関する各種技術に関する学識者や民間企業等からの事例発表及び報告と意見交換

### 2) 第 4 回 リン資源リサイクルシンポジウム

開催日：平成 22 年 11 月 18 日（木）

場 所：東京都内

参集者：関係省庁来賓、会員、一般、取材

合計 シンポジウム：129 名、意見交換・交流会：49 名

内 容：リン資源リサイクルに関する関係省庁の取組の紹介と、連携の促進に関する意見交換

### 3) 第 1 回 リン資源リサイクル事例視察

開催日：平成 22 年 7 月 30 日（金）（第 3 回リン資源リサイクルシンポジウムと合わせて開催）

場 所：岐阜県 岐阜市北部プラント（岐阜県岐阜市）

参集者：関係省庁来賓、会員、一般、取材 合計 71 名

内 容：下水処理施設におけるリン回収事例、回収リン利用事例、等

### 4) リン資源リサイクル推進功績者表彰

リン資源リサイクルについて、その一層の推進及びそれに従事する会員等の一層の意欲向上に資するために、リン資源リサイクルに関して優れた功績をあげた会員等に対する表彰を行った。

平成 22 年度リン資源リサイクル推進功績者：岐阜市上下水道事業部

### 5) 協議会メールニュースの配信

本協議会活動（会員動向、シンポジウム等の開催案内、事務連絡等）、リン資源リサイクルに係る関係省庁の施策や公募等の情報、関係機関の活動、リン資源リサイクルに関する会員、新聞、情報誌、WEB 等からの情報について、電子メールによる提供と共有を行った。

平成 22 年度は、合計 17 回（Vol. 37～Vol. 53）のメールニュースを配信した。

## 6) ホームページの運営

協議会事務局である社団法人日本有機資源協会ホームページ内の協議会専用ページにおいて、入会案内、協議会案内、会員名簿、行事・イベント等の、本協議会活動の広報を主体としたホームページの運営を行った。

## 7) その他

報道関係者、一般等からの問い合わせ（協議会の概要や活動、会員等の紹介、入会手続き等）への対応を行った。

平成 22 年度の主な対応状況は次のとおりである。

- ・東京新聞（東京都のリン資源リサイクル事業について）
- ・月刊廃棄物（協議会の活動紹介とリン資源としての生ごみの活用に関する記事投稿）

## (3) 業務支援事業

本事業は、リン資源リサイクルに関する事業や研究等に関連する会員等からの要請、要望あるいは問合せ等を受けて、その業務を合理的かつ円滑に執行するための支援を行うものであり、平成 22 年度は以下の事業を実施した。

### 1) リン資源リサイクルに関する支援事業

会員等からの要請や問合せを受けて、情報及び資料の提供、面談指導、役職員等の派遣等の他、会員等がリン資源リサイクル事業や研究等を推進する際の様々な課題について、要請に応じて随時検討や協力を行った。平成 22 年度の主な支援内容は次のとおりである。

- ・会員の紹介（講師、下水汚泥焼却灰サンプル提供、調査ヒアリング先、等）
- ・リン資源リサイクル事業（回収リンの利用先や販路、肥料原料としての回収リンについて、等）に関する情報提供及び面談指導
- ・会員等が開催するシンポジウム、講演会等への講師派遣及び役職員の出席

### 2) その他

関係省庁や連携機関、会員等からの問い合わせへの対応を行った。